

# 義務化された二輪車 ABS・CBS ユーザーに必要な心構えは？

- 10月1日から、二輪車（新型車）に ABS・CBS の装備が義務化された。
- 二輪自動車には ABS が、原付二種には ABS か CBS が必ず装備される。
- ABS・CBS を過信せず、急ブレーキにつながらない運転を心がけることが大切。



今年10月1日から、二輪車に ABS（アンチロックブレーキシステム）・CBS（コンパインドブレーキシステム）の装備が義務付けられた。

ABS・CBS への信頼感はユーザーの間に広く浸透している。義務化によってさらに普及が進むが、ユーザーのなかには ABS・CBS への誤解や過信もあり、正しい理解が必要だ。

## まず、今回のルール改正の概要を見てみよう。

二輪自動車（排気量 125cc 超）には、一定の技術的要件に適合した ABS が必ず装備されなければならない。また、原付二種（同 50cc 超～125cc）には、同じく技術的要件に適合した ABS または CBS が必ず装備されなければならないというもの。原付一種（同 50cc 以下）は適用外で、トライアル車などオフロード競技用の車両も適用から外された。

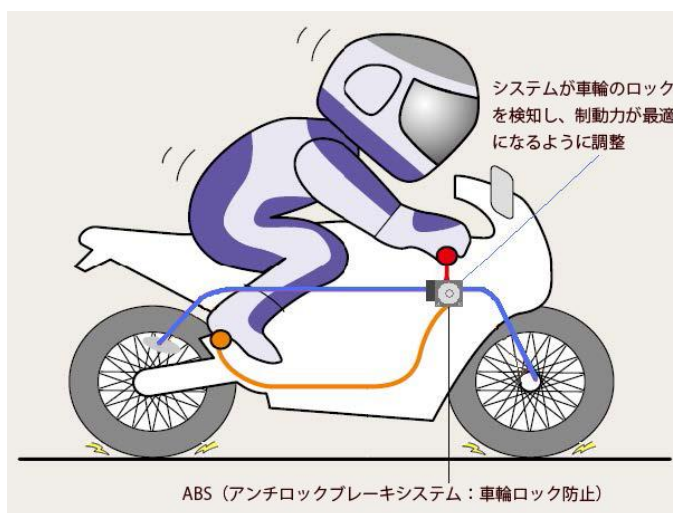
適用時期に関しては、新型車については 2018 年 10 月 1 日からで、すでに義務付けが始まっている。継続生産車などについては、2021 年 10 月 1 日からの適用となっている。

ちなみに、ABS の機能をオン・オフに切り替えできるスイッチも開発されているが、これを装備することは一部の車両（オフロード競技用の車両）を除き禁止されている。

## 二輪車 ABS の機能と効果とは？

二輪車の ABS とはどのようなものか、あらためて機能と効果についてみてみたい。

まず ABS は、一般的には、急ブレーキをかけた時など、車輪がロックしないようにセンサーで感知して、適正な制動力を自動的に得るための装置だ。



二輪車 ABS のイメージ（国土交通省資料より）

歴史を見ると、四輪車への装備は 1980 年代に広まっている。ABS が作動すれば車輪がロックしないので、四輪車の場合、急ブレーキを掛けながらのハンドル操作が可能で、衝突などの回避につながる効果がある。

一方、二輪車の ABS の場合、急ブレーキを掛けたときに車輪がロックしないため、直進時であれば車両の安定性が保たれて、転倒を恐れずに最適なブレーキを掛けることができる。たとえば、高速道路で直進走行しているときに時速 100km から力任せの急ブレーキを掛けたとしても、スリップすることなく安定した状態で停止できることにつながる。また、雨で濡れた滑りやすい路面でも、直進時ならば不安なくブレーキが掛けられる点も二輪車 ABS のメリットとして大きい。

現在、国内 4 メーカーの市販車ラインアップを見ると、すでに大半のモデルが ABS 仕様になっている。

## 前・後輪の制動力をバランスよく配分する CBS

一方、原付二種には ABS か、または CBS が必ず装備される。CBS というのは、ライダーがたとえば後輪ブレーキだけを掛けたとき、前輪にも制動力を発生させて、前・後輪にブレーキが掛かるようにする装置のことをいう。逆にライダーが前輪ブレーキだけを掛けたとき、後輪にも制動力を発生させる CBS もある。そのどちらか一方か、あるいは両方とも機能するシステムもあり、二輪車のキャラクターに合わせて、いずれかの CBS が採用されている。



二輪車 CBS のイメージ（国土交通省資料より）

こうした CBS の効果としては、たとえば運転操作に不慣れなライダーが一方のブレーキのみを操作した場合でも、CBS によって前・後のブレーキがバランスよく掛かり、前後輪に適切な制動が得られる。

今回の義務化によって、原付二種に関しては、メーカーの採用方針によって ABS か CBS かに製品の仕様が分かれてくる。CBS と ABS を組み合わせたシステムも実用化されており、普及の方向性はさまざまだ。

## あくまで運転支援装置——過信は禁物！

ここまで述べてきたように、二輪車の ABS/CBS は、ライダーが不意の危険に面してパニックに陥った状況でも、車両側が自動的に適正な制動力を得ようとするものだ。その点、ライダーにとって有効な保安装置であることに間違いない。

ただ気になるのは、ユーザーのなかには、「ABS 仕様のバイクは、非 ABS 仕様のバイクよりも制動距離が短い」といった誤解があること。装備が義務化されたことで、ABS/CBS への過剰な信頼が高まることは避けなければならない。

一般社団法人日本自動車工業会（自工会）二輪車特別委員会 二輪車安全環境部会の担当者は、「ABS 仕様車と、非 ABS 仕様車の制動距離を比較するとしたら、その差はライダーの

運転技量や路面のコンディションなどに左右されます。運転の未熟なライダーや、路面が濡れて滑りやすい状態だと ABS の効果は大きいでしょう。しかし、熟練ライダーがドライな路面でフルブレーキングをした場合、状況によっては、制動距離は ABS 仕様車のほうが長くなる場合もあります」と説明する。

そうした事実もあり、ユーザーが ABS の機能を過信することは禁物だ。自工会・担当者は、「ABS は確かに有効な装置です。しかしあらゆる局面で ABS がライダーに有利に働くとは限らないので、ユーザーはその点をしっかり認識して、急制動につながらない運転を心がけてほしい」と話している。

ちなみに、ABS が装備された二輪車は、通常の領域では非 ABS 仕様車のブレーキ操作と同じだが、急制動の際は、ブレーキレバー（ペダル）をガッチリ強く握る（踏み込む）のがコツだ。

JAMA「Motorcycle Information」2018年10-11月号特集より